

KFR 第 293 回例会の報告

川崎造船 濱野哲也 記

KFR 主催の KFR 第 293 回例会は、2007 年 6 月 27 日(水)、大阪大学附属図書館本館(豊中キャンパス)において開催された。今回は、「しんかい6500」の1000回潜航を期に三菱重工業(株)石黒氏、(独)JAMSTEC 田代氏をお招きし、ご講演を行っていただいた。テーマが潜水調査船ということもあり学生の関心が高く60名の学生を含む75名の出席者があった。

石黒氏は入社以来、「しんかい6500」を含む多数の有人/無人潜水艇の設計に携わってこられ、設計者の目線から「潜水調査船しんかい6500の開発」と題して、潜航深度6500を達成するための開発時の技術課題とその解決策、下降・上昇の機構、浮力材の構造、耐圧殻の構造とチタン合金のビーム溶接などについて判りやすく紹介・説明していただいた。また、潜航速度を高める工夫として「しんかい6500」は従来型「しんかい2000」と比べ縦長とした事やその性能確認の為にを行ったタフトを用いた風洞試験の様子が紹介された。ご講演後も潜航深度や、今後の開発案について多くの質問があった。



田代氏は JAMSTEC に入所以来、「しんかい2000」、「しんかい6500」の潜航長を歴任してこられ、「しんかい6500の功績とこれから - 運用現場から見た深海調査の現状 - 」と題して運航者の目線からご講演いただいた。多くの画像を用いて、実際に田代氏が見た深海の独特な世界、奇抜な生物の紹介が次々と紹介され聴講者の興味を引くとともに、合間々々に深海で見つけたゴミの紹介があり問題提起をされた。つぎに、有人/無人/自律型潜水艇の紹介があり、それぞれの長所、短所が判りやすく説明された。最後に今後の有人潜水調査船の利用方法の可能性の一つとして研究者・無人潜水艇のオペレーターの育成をあげられた。「同じモニターを通した画像でも実際にそこに行った経験がある者とそうでない者が得る情報は異なる」という言葉は印象的であった。